

平成25年度 就職・キャリア支援研修会[専門コース] カリキュラム内容

研修名	就職・キャリア支援研修会[専門コース]
日程・期間	6月28日(金)・29日(土)／11月9日(土)、3日間
定員	36名
開催地区	1地区(東京)

研修日	No.	時間(分)	形式	プログラム名	目的	内容
1日目	①	110分	全体講義・小演習	就職・キャリア支援プログラム概論 [前半]	就職・キャリア支援に関する企画・マネジメント業務を行う中核的な担当者として、その実践力を支える専門性についての理解を深め、当研修の焦点である「組織的な問題解決(就職・キャリア支援プログラム)」についての基本的な知識・スキルの再確認をする。	3日間の研修の構造と進め方についてのオリエンテーションを受けて、就職・キャリア支援の中核的な担当者としての専門性やそれを支える知識・スキルについての解説と小演習を通じて、このあとのグループ別演習にむけての準備を整える。
		90分		就職・キャリア支援プログラム概論 [後半]		
2日目	②	150分	演習	就職・キャリア支援プログラム演習1 (プログラム開発演習) [前半]	学生の状況、彼らをとりにくく進路・就職環境や大学等固有の事情といった諸要因の整理と分析、これらを踏まえた「就職・キャリア支援プログラム」の設計・開発のグループ演習を通じて、問題解決スキルとマネジメントスキルの向上を図る。	あるケースを題材にして、インタビューワーク、問題を引き起こしている要因分析を討議形式で進め、グループの総意として導き出された課題を解決するための効果的な「就職・キャリア支援プログラム」案の設計・開発を行なう。
		150分		就職・キャリア支援プログラム演習1 (プログラム開発演習) [後半]		
	③	200分	演習	就職・キャリア支援プログラム演習2 (プログラム発表・評価演習・解説・振り返り)	自校の就職・キャリア支援プログラムの設計・開発に関する多様な視点と知恵を確認するとともに、プログラム評価の視点を養う。	作成した「就職・キャリア支援プログラム」案の発表・共有を行ない、各受講者が大学等経営者の視点から、他のグループが作成したプログラムに対する評価を試みる。最後に、講師から開発演習と発表を通じた「まとめ」の解説を受け、個別の振り返りを通じて、ここまでのカリキュラムで得た知識や気づきの整理を試みる。
	④	50分	演習	就職・キャリア支援プログラム演習3 (チャレンジ課題作成・共有・質疑応答)	ここまでのカリキュラムで得られた知識や気づきを踏まえて、自校で取り組む「チャレンジ課題」を明確化し、4か月間の取組への目的意識を醸成する。	プログラム開発演習の中で登場した種々のテーマを総括した上で、受講者自身が既に認識している自校の問題(または当研修の中で、新たに認識した問題)に、当研修で得た知識や気づきを重ね合わせて、4か月間の中で取り組むべき課題を抽出することを個人演習で行ない、これをグループ共有や相互アドバイスを通じて、「チャレンジ課題」として明確化していき、自身への動機付けを行なう。最後に、課題に取り組むにあたっての質疑応答を2日間のまとめを兼ねて行なう。
3日目	⑤	145分	発表・討議	就職・キャリア支援プログラム総括1 (チャレンジ課題発表・討議)	4か月間のなかで取り組んできた「チャレンジ課題」の発表と討議を通じて、多様な視点や知恵の共有を図り、自身の取組の継続的な改善に活かすとともに、就職・キャリア支援に関する企画・マネジメント業務の実践力を向上させる。	「チャレンジ課題」の概要、収集した事実情報、要因分析、課題解決のための取組(プログラム)とその結果(実施状況)の発表と討議を通じて、受講者の相互アドバイスを試み、研修の成果を共有する。
	⑥	90分	発表・質疑	就職・キャリア支援プログラム総括2 (チャレンジ課題発表・質疑応答)	4か月間のなかで取り組んできた「チャレンジ課題」の発表と質疑を通じて、多様な視点や知恵の共有を図り、自身の取組の継続的な改善に活かすとともに、就職・キャリア支援に関する企画・マネジメント業務の実践力を向上させる。	代表者による「チャレンジ課題」の概要、収集した事実情報、要因分析、課題解決のための取組(プログラム)とその結果(実施状況)の発表と質疑を通じて、受講者の相互アドバイスを試み、研修の成果をより深く共有する。
	⑦	110分	質疑	就職・キャリア支援プログラム総括3 (振り返り・まとめ・質疑応答)	3日間と4か月間の研修のまとめとして、就職・キャリア支援における組織的な問題解決の重要性を再確認し、大学等における就職・キャリア支援担当者としての専門性を高める。	3日間と4か月間の研修全体を通じての気づきを振り返り、そこで生じた疑問に対する講師の回答と研修全体の総括を通じて、組織的な問題解決のアプローチと必要なスキルに関する理解を深め、また変革の定着化についての補足をして、支援の現場に戻ってからの継続的な取組と改善につながるポイントを学ぶ。